

「子宮頸がん検診」

子宮がんには子宮の入り口にできる子宮頸がんと、子宮の奥にできる子宮体がんがあります。今回は頸がんの最新の検査方法について説明します。

集団検診は、車検診や病医院などの施設検診が行われていますが、その受診率は低く検診対象者の約20%にとどまっています。また、職場検診や人間ドックなどを加えても約30%です。その結果、年間3,000人が子宮頸がんで亡くなっています。

一般にがんは原因不明でしたが、子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス（高リスク型HPV）の感染であると分かりました。これはイボをつくるウイルスの一種で、性交渉で感染しますが、このウイルスはごくありふれたもので性交渉の経験を持つ女性の50%、80%が、一度はHPVに感染するといわれています。感染しても多くの場合はその人の免疫力により、ウイルスは2年以内に自然消滅します。感染自体は病気ではなく症状ありません。

しかし、約10%の人がウイルスを排除できず、感染が長引きます。そうすると、子宮頸部の細胞に異

常（異型性）が発生し、長い年月を経て子宮頸がんへ進行する危険性があります。ヒトパピローマウイルスに感染しているかどうかを調べることで、子宮頸がんの発見と予防が可能になりました。

細胞診、HPV検査は綿棒、ブラシ等で子宮頸部をこすり細胞を採取して行います。同時に検査ができ痛みはありません。両者を併用することで精度があがり細胞診の的中率がほぼ100%に近づきます。

たとえば、細胞診（一）HPV（一）のとき、がんになるリスクはほとんどないため検診の間隔を2〜3年延長できます。細胞診（二）HPV（+）のときは、6〜12カ月後再検査が必要になります。現在、HPV検査は集団検診では行われておりませんが、施設検診で希望される方には行っています。

この場合、現在保険は適用されず自費になります。大切な家族が悲しい思いをしないためにも、ぜひ子宮頸がん検診を受けてほしいと思います。

文 田崎医院 田崎敬事先生

